



2022年度
報告書



絵本を届ける運動

2022

本
の
力
を
、
生
き
る
力
に



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

なぜ絵本を届けるの？

本を知らないということは、つまり教育を受ける機会がないということ。教育を受けることができないと、安定した仕事に就けず、貧困から抜け出すことができません。学校や図書館などが不足している国では、子どもたちが学ぶ機会を持てないまま、大人になってしまいます。

シャンティは厳しい環境で暮らす子どもたちにも、知らない世界を知るドキドキ、時間を忘れて夢中になる楽しさ、たくさんの物語や言葉を知る喜びに出会ってほしいと願い、絵本が不足している地域に日本から翻訳絵本を届けています。



公用語を知らない子どもたちにも絵本を

少数民族の子どもたちの学びや、経済発展に伴う経済格差など、さまざまな学習環境の課題を抱える多民族国家ラオス。シャンティは30年前から、主に公用語であるラオス語が話せない少数民族の子どもが多く住む農村部で、教育の質改善に取り組み、その一環としてさまざまな翻訳絵本を日本から届けています。



小学校での移動図書館活動



読み聞かせに夢中になる子どもたち

あなたのつくった 翻訳絵本が届くまで

1

翻訳絵本づくり

ご自宅や職場で、絵本に現地語の翻訳シールを貼っていただきました。

2022年1月～10月

のべ16,603人 504企業・団体が参加
(参加費・募金額：51,372,970円)

毎年の申込期限：10月末まで



2

翻訳絵本を海外へ

翻訳絵本はシャンティ東京事務所に集められます。梱包した翻訳絵本を運び出すのは年1回です。

2023年2月2日

シャンティの職員や関係者
51名が参加



3

海外事務所に到着

日本から船便や航空便で各国・地域のシャンティ事務所に届きます。船便輸送は日本郵船株式会社様にご協力いただいています。

2023年3月～4月ごろ到着予定



4

子どもたちの手元へ

- ・移動図書館
 - ・おはなしの読み聞かせ
 - ・学校や図書館への配架
- などの活動を通して、翻訳絵本が子どもたちへ届きます。

2023年5月以降



どんな絵本を届けたの？

シャンティが活動を行う国や地域では、実施している活動内容や子どもたちの年齢、文化的背景などに応じて必要な絵本が異なります。毎年届ける絵本は海外事務所から届くテーマやジャンルのリクエストに基づき、児童書の書店員、図書館員、出版社からおすすめの絵本を教えてください。その後、候補タイトルを活動地に送り、最後は子どもたちと日ごろ接する現地職員が選びます。

テーマ「日々の暮らし」

『あなたのいえ わたしのいえ』

加古里子 作、福音館書店

家は、どうすればより快適に暮らせるかを人が考え、工夫して作った暮らしの道具の集まりです。当たり前にある屋根や床、壁などのありがたさを、楽しい絵と一緒に改めて感じることができる絵本です。各国からリクエストのあった絵本で、2022年は4言語に翻訳しました。

テーマ「生物」

『しんかい たんけん！
マリンズノー』

作者 山本孝、小峰書店

「今日の探検は深海！」潜水艦に乗ってどんどん深くに潜ります。水深200メートル、1,000メートルと潜るとたくさん不思議な生き物たちに出会います。

絵も内容も楽しい絵本です。身近な生き物を扱った絵本はこれまでに多く送ってきましたが、この絵本では深海に住む生き物がたくさん登場します。未知の生き物にドキドキが止まらない1冊です。

2022年度に届けた絵本の一部
(2022年度の実績：35タイトル)

活動地からのさまざまなリクエスト

- ・自然や植物について学ぶことができる絵本
- ・日々の暮らしにまつわる絵本
- ・きもちを考える絵本
- ・生物について知ることができる絵本
- ・色や形、数字などを学ぶことができる絵本

といったさまざまなリクエストが活動地から届きます。日本語独特の言い回しなどが含まれる活動地の子どもの伝わりにくい絵本や、活動地で馴染みがない右開きの絵本は候補から外し、できる限りリクエストに沿った絵本を選びます。



テーマ「きもち」

『かなしみがやってきたら
きみは』

作 エヴァ・アイランド、訳 いうひろみ、ほるぶ出版

突然やってきたかなしみ。最初は隠してみたりしますが、絵本の後半では一緒に絵を描いたり、森に出かけてみます。するとそのうちかなしみは…。

かなしみと向き合うヒントをくれる絵本です。生きていくと避けることのできないかなしみ。各国の子どもたちがかなしみを感じた時、そっと寄り添ってくれる1冊になることを願っています。

テーマ「自然」

『木』

佐藤忠良 画、木島 始 文、福音館書店

木の根や幹、葉っぱを観察しながら、木が見せるさまざまな表情が丁寧に描かれています。最後のページには、木の大きさや力強さを感じられる仕掛けがあり、大人も子どもも楽しめる絵本です。2022年はカンボジア向けにクメール語に翻訳しました。絵本を手にする子どもたちの周りにはどんな木が生えているのか、各国の自然にも想像が広がる1冊です。

2023年もよろしくお願ひします

「絵本を届ける運動」は誰もが気軽に参加できる国際協力の方法です。個人でも企業、団体でも取り組むことができます。みなさんがつくった翻訳絵本は海を越え、子どもたちの笑顔につながっています。2023年度は17,595冊を目標にしています。ぜひご参加をお待ちしております。

毎年 申込期限 10月末まで

2023年度のお申込みはこちらから

Q シャンティ 絵本を届ける運動



sva.or.jp/ehon



公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Association (SVA)

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F

Tel. 03-6457-4585 (「絵本を届ける運動」直通) / 03-5360-1233 (代表)

Fax. 03-5360-1220 E-mail. ehon@sva.or.jp

「絵本を届ける運動」2022年度 活動報告書 2023年3月1日

後援：文部科学省、公益社団法人 日本図書館協会、公益社団法人 読書推進運動協議会

助成：公益財団法人 ベルマーク教育助成財団 | 輸送協力：日本郵船株式会社

デザイン：保田 卓也 | 写真協力：川畑 嘉文 | イラスト：きよはら えみこ

「写真中の絵本」〈福音館書店〉『そらいろのたね』さく：中川李枝子、え：大村百合子 | 『ぐりとぐら』さく：中川李枝子、え：大村百合子 | 『おおきなかぶ』再話：A.トルストイ、訳：内田莉莎子、画：佐藤忠良 | 『木』画：佐藤忠良、文：木島 始 〈ポプラ社〉『ふゆとみずのまほう こおり』写真文：片平 孝 〈ほるぶ出版〉『さるとわに』作：ポール・ガルドン、訳：北村順治 〈偕成社〉『わにさんどきつ はいしゃさんどきつ』作：五味太郎 〈こぐま社〉『わたしのワンピース』著者：西巻茅子 〈あすなろ書房〉『ゆき』作：ユリ・シュルヴィッツ、訳：さくまゆみこ

受け取った人たちの声

Afghanistan

アフガニスタン アイさん（図書館を利用する子ども）

図書館にはほぼ毎日通って絵本を読んでいます。好きな絵本は『ぐりとぐら』（福音館書店）です。ぐりとぐらがケーキを焼いているページが特にお気に入りです。教育に関する絵本、教育を奨励するような絵本をもっと読んでみたいと思います。将来は私自身も学校や教育、そして平和に関するすてきなストーリーがかけの作家になりたいと思っています。



Myanmar

ミャンマー ティン ティン ミヤさん（シャンティ職員）

『おおきなかぶ』（福音館書店）の読み聞かせは、子どもたちだけでなく大人も一緒になって楽しむことができるのでお気に入りです。宇宙や惑星、ロケットについての絵本など、普段の生活であまり触れることのないテーマの絵本を今後は非読んでみたいと思います。子どもたちには平和な社会で健やかに育ってほしいと願っています。



Laos

ラオス ペットさん（図書館を利用する子ども）

料理が好きで、家ではご飯を炊いたり家事の手伝いをしています。図書館には週2回ほど通っています。絵本を読んでいるときや、読み聞かせをしてもらっている時間はとても楽しいです。かわいいウサギがでてくる『おかあさんといっしょ』（福音館書店）の絵本が特にお気に入りです。動物に関する絵本をもっと読みたいです。将来は医者になりたいと思っています。



Cambodia

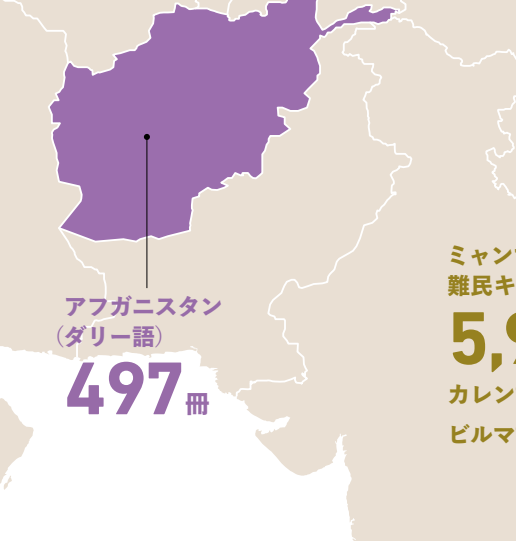
カンボジア パールさん（小学校教師）

小学校で教員と図書館員をしています。子どもたちは日本からの絵本が大好きです。絵本を読むと幸せな気持ちになれるので、子どもたちの教育にもとても良いと感じています。今後は図書館で、お絵かきや他言語を学ぶ活動を行いたいと思っています。子どもたちにはこの国の発展に貢献できる人になってほしいと願っています。



届いた翻訳絵本は シャンティの教育文化支援活動に 役立てられています

2022年度に「絵本を届ける運動」を通じて届けた翻訳絵本の冊数



絵本タイトル数

35タイトル（15社）

クメール語	6,316冊
ラオス語	2,683冊
ダリー語	497冊
ビルマ語	5,758冊
カレン語	3,266冊

合計冊数（2022年度末まで）

18,520冊

ミャンマー（ビルマ語）

3,062冊

ラオス（ラオス語）

2,683冊

カンボジア（クメール語）

6,316冊

日本での参加者数

16,603人（のべ）

504企業・団体

Japan

2022年度に「絵本を届ける運動」に参加した方々の声

学校での参加

翻訳絵本づくりを通して、子どもたちの学びの手助けができたことがうれしかったです。子どもたちには、本を通してたくさんのことを学び、今まで知らなかった新しい世界を知って、本を生きる力にして過ごしてほしいという気持ちでいっぱいです。また、厳しい環境に住む子どもたちが学校にいけない理由など、普段はあまり触れないことについて深く考えることができ、良い経験になりました。（大学生）

企業での参加

リモートワークになる前に会社の会議室でこの活動に参加した人から話を聞いていて、ぜひ参加したいとずっと思っていました。久しぶりに絵本にも触れることができ、自分にとってもとても楽しい体験となりました。（会社員）

個人での参加

シャンティの動画を観て、自分と同じくらいの年齢でも、学校に行けない子どもたちがたくさんいることが分かりました。ビルマ語で名前を書くのは難しかったけど、難民キャンプの子どもたちが自分の作った翻訳絵本を読んでもくれると思うと、とてもあたたかい気持ちになりました。すてきな体験ができて良かったです。（小学生）

Myanmar(Burma) Refugee

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ ゲーボウさん（図書館に通う子ども）

両親が難民キャンプで出会い、私はここで生まれ育ちました。キャンプにある図書館には週2回程通い、絵本を借りてほぼ毎日読んでいます。絵本はたくさんのことを教えてくれるので大好きです。特に好きな絵本は『ゆき』（あすなろ書房）です。雪が降ってみんながうれしそうにしているところがお気に入りです。これからも勉強を続けて、将来はお医者さんになりたいです。



シャンティ国際ボランティア会とは

1981年に設立したアジアを中心に活動する、日本生まれのNGOです。子どもたちへの本を通じた教育文化支援、国内外の災害や紛争後の緊急人道支援を行っています。

「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて取り組んでいます

2015年9月に国連で「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。シャンティは「目標4.質の高い教育をみんなに」を実現するため、教育課題の解決に取り組んでいます。また、「SDGs」「国際理解」などをテーマに、絵本をつくりながら行うワークショップを受け付けています。ご希望の方はウェブサイトよりお申込みください。



40年記念対談動画「難民キャンプの図書館で育まれた平和と文化」

2021年に団体設立40年を迎えたことを記念し、ゲストをお呼びしてこれまでの取り組みを振り返る記念対談が行われました。20年以上親交を深める映像作家の直井里予さんと、ミャンマー事務所 所長の中原亜紀の対談では、難民キャンプにおける図書館活動の意義や、子どもたちにとって図書館や本がどういった存在なのかについて語りました。



対談の映像は
こちらから
ご覧いただけます。

sva.or.jp/shantcolumn/talk03-01/

これまでに届けた翻訳絵本（累計）

